

研究主題 「心豊かな生徒の育成を目指して」

～探究活動による道德教育の推進～

埼玉県立深谷高等学校

1 研究主題の設定理由

令和4年度から新教育課程となり、さらに生徒に多様な価値観について探究活動を中心に主体的に学ぶ機会を与えるとともに本校の教育活動全般を通して道德教育を推進したいと考えている。

また、渋沢栄一翁の教えを受け継ぎ、深谷市の教育の基本理念となっている、「立志の精神」・「忠恕の心」についても触れ、より地域との接続教育を意識した生徒の育成を目指したい。

2 研究の仮説

- (1) 探究学習や体験、振り返り等の多面的な活動を通して、自己理解や他者理解を深めることができるのではないか。
- (2) 地域の教育力を活かし、偉人である渋沢栄一翁の生き方について触れることにより、生徒の意識に変化があるのではないか。

3 研究の経過

時 期	内 容
年 間	総合的な探究の時間における探究学習（年間） 「明日をめざして」を活用した指導法の研究 キャリアパスポートの作成による振り返り
5月18日	職員による事業所視察
6月1日	「ふるさと ふかや・渋沢学」探究講演会
8月17日	探究学習 夏季集中講座①
8月30日	探究学習 夏季集中講座②
10月20日	研究発表会（生徒発表・講演会）
10月28日	P T A研修旅行
11月2日	修学旅行事前学習 平和講話
11月10日	「ふるさと ふかや・渋沢学」フォーラム 実践発表・意見交換
11月15日	夢と豊かな心を育む講演会
1月15日	明日をめざして「誠の心～渋沢栄一物語～」

4 研究の内容

- (1) 深谷市との連携による探究学習

①「ふるさと ふかや・渋沢学」 探究学習講演会

〈様式2〉 令和5年度埼玉県道德教育研究推進モデル校 実績報告書

6月1日（木）に全学年を対象とし、講師に深谷市教育委員会の指導主事を迎えて講演会を実施した。探究テーマを11月実施のフォーラムに合わせ、「ずっと住み続けたい“まち”深谷ってどんな“まち”だろう」と設定し、自然・防災・産業・福祉・観光など様々な角度から深谷について講義いただいた後、ワークシートを用い、テーマについて自分の考えをまとめた。終了後も教科横断的に「地理総合」や「地学基礎」、「ふかや学」（学校設定科目）で講義内容と授業とを関連付けて学びを深め、地域社会をテーマに自己の在り方生き方を考え設計する力を身に付けることにつながった。



6月1日 講演会



8月30日 夏季集中講座

②探究学習 夏季集中講座

8月17日（木）・30日（水）の2回、希望者を募り、深谷市渋沢栄一政策アドバイザーである金田隼人氏がファシリテーターとなり、探究学習に取り組んだ。6月に各自が考えた深谷の魅力や課題をさらに掘り下げ、チームとして意見をまとめた。

参加生徒は感想として「チームワークを発揮するためには、個々の思いや気持ちを大切にし、発信することが重要であると気づいた。」と述べている。探究学習を通して、自己理解や他者理解につなげることができた。

③「ふるさと ふかや・渋沢学」フォーラム 実践発表

11月10日（金）、深谷市民文化会館で開催されたフォーラムにおいて、夏季集中講座に参加した生徒が研究発表を行った。このフォーラムは、郷土の偉人・渋沢栄一翁の「立志と忠恕」の精神を育み、持続可能な地域社会を創造していくための実践力を身に付けた心豊かな人材を育成することを目的とし、深谷市教育委員会が開催した。中学生との意見交換も実施され、さらに自分たちの考えを深く掘り下げて考えたり、集団の中で、よりよい人間関係を自主的、実践的に形成したりする機会となった。また、10月20日（金）創立50周年記念式典でも発表を行い、探究学習の成果を本校生徒の学びとした。これを次の講演会とともにモデル校としての研究発表会と位置付け、県内の高校へ案内した。



(2) 創立50周年記念講演 「渋沢栄一の『論語と算盤』で未来を拓く」

10月20日（金）、渋澤健氏による記念講演を行った。栄一翁の「論語と算盤」の言葉を引用しながら、これからの時代の常識や逆境に立った時の心構えなどを

〈様式2〉 令和5年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

講義いただいた。「ポイントは人が集まって新しい価値を創ることであり、人間力を持てば、どのように環境が変化しても良い時代を創っていける。」と教えていただいた。講演終了後は、ワークシートを作成し、自身の在り方について考えた。

(3)総合的な探究の時間における探究学習

① 修学旅行事前学習 平和講話

11月2日(木)、山中茉莉氏を講師に迎え、2学年を対象に平和学習を実施した。講師の被爆体験を聞き、改めて「平和」について考える機会となり、11月に実施した修学旅行での広島での平和学習がより効果的なものとなった。

「原爆だけでも大変だったのに周りの人に差別を受けたり、世間からの強い風当たりがあったりしたことを初めて知った。実際にそこにいた人たちにしかわからない恐怖を察することができた。語り継いでいかなければならないと思った。」と生徒が感想を記している。



② 夢と豊かな心をはぐくむ講演会

11月15日(水)に全学年を対象とし、講師に本校の卒業生である埼玉パナソニックワイルドナイツ 山沢拓也選手・山沢京平選手を迎えて「『夢の実現』に挑み続けること」という演題で講演会を実施した。終了後の生徒の振り返りに「今回の講演で夢を成し遂げるには、今突き当たっている壁を一つ一つ乗り越えることができれば自ずと見えてくると思った。面倒なことでも逃げずに行動していきたい」とあり、先輩の姿に多くのことを学んだ。



(4)「明日をめざして」の活用

在り方生き方全体計画に各学年ともに取り組むテーマずつを位置づけている。1学年では1月に「誠の心～渋沢栄一物語～」に取り組み、渋沢栄一翁の生き方について触れる機会を持った。生徒のワークシートに「人のことを考えて生きるというのは簡単そうに見えてとても難しいことだと思う。私も人のことを思いやれるようになりたい。」とあり、栄一翁の人生から自分の生き方について考えた様子が伺える。(参考：<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/26978/403788.pdf>)

(5)キャリアパスポートの作成による振り返り

年度当初と各学期の終了時に振り返りをするとともに学校行事についても事前・事後と記入欄を用意し、自分が成長したと思う点や今後に生かしていきたい点

〈様式2〉 令和5年度埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

について表現をし、次の目標設定につなげた。

(6) 事業所視察（職員研修）

5月18日（木）、赤城乳業株式会社本庄千本さくら5S工場を職員が視察し、事業説明を受けるとともに工場を案内いただいた。職員の視野を広げ、企業で期待される人材像を把握することを目的とした。「おいしさと楽しさと豊かさを提供する、ドリームメーカー」という言葉が印象的であった。また、自らが考えて行動できる人材が求められていることを改めて実感した。生徒が働くことを通じて、人や社会とどのように関わるかという視点を取り入れて、今後の生徒の教育活動に生かしていきたいと考えた。



(7) P T A 研修旅行

10月28日（土）、東京都北区にある渋沢資料館を訪問するバス旅行を実施した。昨年度は地元である中の家（生家）や渋沢栄一記念館を訪問した。栄一翁の人生をたどり、主体的に判断し行動している姿は、生徒にも還元できる視点であるとともに改めて保護者の方々と目線を合わせて、協力しながら生徒の成長を促していくことの重要性を感じた。

5 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

2年間の研究を通じて、教育活動全般を通じて「振り返り」を意識し、自身の在り方生き方を考えるよう促すことが浸透した。また、「ふるさと ふかや・渋沢学」を軸に地域との連携を意識することで、改めてその教育力が有効であると感じた。

また、授業や様々な教育活動を通じて、ワークシートや振り返りの記述から生徒が自己理解や他者理解を深めている様子が見られる。

12月に全校生徒を対象に実施したアンケートでは「頭髪や身だしなみをきちんとし、時間を守って行動している」という質問項目に対し、「そう思う・ややそう思う」と回答した生徒が91%であり、昨年度より3%増加した。研究の成果が規範意識の醸成にも結びついていることが推察できる。

(2) 研究の課題

本校での道徳教育は、総合的な探究の時間委員会が中心となり、「在り方生き方教育年間計画」を立案するとともに各学年がその計画に基づいて「総合的な探究の時間年間計画」を作成し、計画的に実施している。2年間の事業を通して、計画の重要性を改めて実感した。周年行事もあり、予定していた小中学校教員対象の公開授業が日実施できなかったことが反省点である。

本校は深谷市内から通学する生徒が約半数という現状にある。今後も交流を深め、接続教育についてさらに意識をし、心豊かな生徒を育成していきたい。